



このコーナーでは、市民図書館が所蔵している新刊を紹介します。

第45回憲法記念講演会

イベント 地方自治について考えてみませんか

「危機の時代の地方自治」と題し、曾我謙悟氏(京都大学大学院法学研究科教授)が講演します。明治以来、地方分権の時代にいたる日本の地方自治の歴史を振り返りつつ、危機の時代に地方自治体がどのように立ち向かっているか、今後の展望と合わせて考えます。定員は240人で、先着順。入場料は無料です。申込みは、電話または市ホームページの電子申請フォームで、11月26日(木)までに市長室へ。



曾我 謙悟 氏

- 日時：11月27日(金) 午後2時～3時30分
- 会場：コンパルホール1階 文化ホール
- その他：当日は、検温と手指消毒、マスクの着用をお願いします。発熱や咳など風邪のような症状がある人は参加を控えてください。 ホームページはこちら▲

☎ 市長室 ☎537-5600

美術館で音楽会を開催します

イベント 美術館で素敵な音色をお楽しみください

「美術館で音楽会」に応募していただいた皆さんによる演奏会です。歌謡曲やジャズ、童謡など幅広いジャンルの曲を披露します。参加は無料です。



- 時間：①午後0時30分～1時15分
②午後2時30分～3時15分
- 場所：市美術館 研修室

月日	時間	アーティスト名(種類)
10月31日(出)	① 藤澤菜那・安東峰子(ピアノ、歌) ② Mars(ジャズ)	
11月7日(出)	① ギター&キーボー(ハワイアンギター) ② LIGHTJAZZGROUP(ジャズ)	
11月14日(出)	① いろとりどり(フルート) ② 箏・尺八 Duo “凜”+西佳之介(箏、尺八)	
11月21日(出)	① るるとりぶれっと♪(歌、ピアノ、コントラバス等) ② Rossoala(ピアノ、フルート、ユーフォニアム)	
11月28日(出)	① ローズウッド(リコーダー、ピアノ) ② ロス・マルテス(クラシックギター)	

☎ 市美術館 ☎554-5800

第34回秋の読書週間事業「文化講演会」

イベント 読書への関心を深めませんか

10月27日から11月9日の「秋の読書週間」に合わせて、文化講演会を開催します。講師は紺野美沙子氏(俳優・朗読座主宰)で講演と国際親善活動などについての対談との二部構成で行います。定員は150人で、先着順。入場は無料ですが、入場整理券が必要です。入場整理券は、10月15日(木)から市民図書館2階中央カウンター、市民図書館コンパルホール分館カウンター、各地区公民館図書室、鶴崎・植田市民行政センター図書室にて配布します。なお、配布場所により枚数に限りがあります。



紺野 美沙子 氏

- 日時：10月31日(土) 午後2時～3時30分
- 会場：コンパルホール3階 多目的ホール

☎ 市民図書館 ☎576-8241

市立幼稚園・認定こども園(1号)の入園児を募集します

募集 市立幼稚園・認定こども園で楽しい集団生活を送りましょう

園では楽しい集団生活の中で主体的な遊びや体験活動を通じて「生きる力」の基礎を育みます。幼稚園の対象は、市内に居住する4歳児～5歳児(平成27年4月2日～平成29年4月1日生まれ)です。また、令和3年4月から野津原幼稚園と野津原保育所は、市立のつはる認定こども園に移行し、対象は市内に居住する3歳児～5歳児(平成27年4月2日～平成30年4月1日生まれ)です。保育料は無償(食材料費、行事費などは保護者負担)です。申込みは、10月15日(木)から各園で配布する入園願書に記入し、希望する園に提出してください。選考方法や休園の取り扱いなど詳しくは、市ホームページをご覧ください。



- 願書受付期間：11月2日(月)～13日(金)
- 対象園：(市立幼稚園) 金池*、春日町*、豊府、滝尾*、桃園、舞鶴**、別保、明治、高田*、松岡*、戸次、東植田、植田、宗方**、大在*、坂ノ市、佐賀関*
※は2年制保育実施園、☆は一時預かり実施園
(認定こども園) のつはる認定こども園
※認定こども園では3年制保育、一時預かりを実施

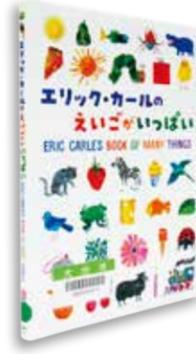
☎ 保育・幼児教育課 ☎537-5789

エリック・カールの えいごがいっぱい

エリック・カール：絵 偕成社

身の回りのことや生き物の名前を英語にしたまさに「えいごがいっぱい」な絵本です。ページをめくると「はらぺこあおむし」で知られるエリック・カールの色鮮やかな世界が広がっています。今まで彼が描いてきた動物や虫たちもたくさん登場し、楽しみながら英単語も学べます。

☎ 市民図書館 ☎576-8241



信じた道の先に、花は咲く。

太田朋子：著 マガジンハウス

この本は86歳の現役科学者が日々の幸福の在り方、そして希望の持ち方を語った本です。著者は日本人女性で初のクラフォード賞を受賞。決して順風満帆ではなかった著者の、自分を信じる生き方や強靱な心の持ち方が書かれており、幸せをつかむ方法を見いだすことができます。



リスからアリへの手紙

トーン・テレヘン：著 河出書房新社

最近、手紙を書くことが少なくなってきましたよね。この本は個性豊かな動物たちのちょっと不思議な手紙のやりとりを描いた本です。何を書いているのか分からないと悩む動物たちの姿がかわいらしく、ほのぼのとした気持ちにしてくれます。大人のための童話です。

人権・同和教育シリーズ 503

人の生き方を考える



ふるやん

わたしの部署に、加藤さん(仮名)の配属が決まりました。事前打ち合わせの中で、同じ県の出身であることが分かり、「わたしは〇〇市だけど、加藤さんはどこ？」と尋ねると、「隣の△△市です。近いですね」とさりと答えたのです。それを聞いて、「ドキッとしたわたしは、小学生的の時から何度も学んでいるから、避けることはないけれど、そうじゃない人もいるかもしれないわよ。だから、あまり言わない方がいいんじゃないの」と伝えました。次の日の朝礼で、最初に異動者の自己紹介があり、加藤さんはためらうことなく出身地を言ったのです。数人がコソコソと話し始め、上司が「そのことは知っているよ」と言ったのです。わたしが「やっぱり...」から、言わない方が...」と思った時でした。上司は「偏見や差別があって、患者や住人を誹謗中傷するようなこ

とが今も起きているんだってね。加藤さんも、つらい思いをしたことがあるんじゃないの？」と尋ねたのです。加藤さんは「嫌な思いをしたことがあります。だから、出身地は言わないう方がいいと思ってた時期がありました」と答えました。そして、「でも、わたしよりもっとつらい思いをしている人がたくさんいるんです。だから、差別を少しでもなくすためには、事実や自分の思いを話すことが必要だと考えました。いろいろな見方がありますが、わたしの大切なふるさとですから」と加藤さんは力強く続けたのです。上司が「やはり、多くの人が苦しんでいる現実があるんだな...。これは、あなたただけではなく、わたしたちの問題なんだよ」と言うと、その場にいたみんなももうなずいていました。

加藤さんや上司の話聞きながら、思いやりや優しさのつもりだったわたしの言動は、本当に加藤さんのためだったのかと考えさせられました。

本来、出身地などについて誰もが誇りを持って話せる世の中であるべきなのですが、偏見や差別により、それができにくい現実があります。わたしたち一人一人が、自分らしく生活していくためには、差別のない社会の実現が必要なのです。